

大阪を生きる 12人の物語 第3回

ホスト 高島幸次

ゲスト 笑福亭仁智



人々を通すことで見えてくる大阪の文化的魅力を探る対談連載『大阪を生きる12人の物語』。第二回は、この春に再選し（*）、上方落語協会会長として三期目に突入したばかりの笑福亭仁智さんをお迎えしました。ホストはお馴染み、歴史学者の高島幸次さんです。

タタリを呼ぶ会長？

高島 直木賞作家の朝井まかてさん、この二月に開館したてで話題の大阪中之島美術館館長・菅谷富夫さんに続き、今日は上方落語協会会長の笑福亭仁智師匠にゲストとしてお越しいただきました。師匠が会長になられてどれくらいでしたっけ？

仁智 いまは二期目で、丸々四年になります。ただ、今月末に選挙があるので、ひよっとすると、この対談を読者の方が目にするときには会長じゃなくなっている可能性もあります（笑）。

高島 会長にならばった当初は、今後の上方落語界をどうしていこうか、いろいろな抱負がありました。

と思うんです。ところが、いよいよ始動というときから、いやに不幸が重なりましたよね。

仁智 二〇一八年の六月一日から会長に就任したんですけど、これからやなと思つたら、いきなり大阪府北部地震というのがあつて。忘れもしません、六月十八日ですわ。そのとき、たまたま名古屋のほうに泊つてまして、大阪行きの電車は止まるわ、名神高速道路も通行止めになるわで、（天満天神）繁昌亭の支配人と電話でやり取りしながら、「これは休館せなしゃあないですね」つて話になつて……そのとき初めて会長の責任の重さを痛感しました。

高島 ご自身が会長であることを実感した瞬間だったわけですね。繁昌亭というのは大阪天満宮に隣接する落語の常設の小屋ですが、地震なんかがあつた場合に、たとえば東京だと、寄席を開く開かないは席亭（経営者）が決めることと思つてます。

仁智 東京の寄席は席亭さんが運営されていて、そこへ落語協会や落語芸術協会から噺家さんに来ていただくんですが、繁昌亭は上方落語協会という落語家が集まった組織が運営しているものですから、休む休まないとか、番組編成、チケットの値段まで、運営に関する

高島 なるほど。地震で休館というのは、仁智さんの代になって初めて起きたこと？

仁智 二〇〇六年のオープン以来、初めてです。繁昌亭の設立に尽力された前会長（桂文枝）のときは、天災で休館になるということはありませんでした。そやけど、ワタクシのときはいろいろあつて、地震の次は大雨（平成三十年七月豪雨）ですわ。七月の大雨のあと事務局から電話がありました、「楽屋が浸水しました」と。

高島 浸水も繁昌亭ができて以来、初めてですよね？

仁智 初めてです。粒立っておっしゃっていたいて、ありがとうございます（笑）。

高島 そこまでトラブルが続くと、いい加減このあたりで終わりやろうと思つてた？

仁智 ところが、今度は九月に台風二十一号……関西空港の連絡橋へタンカーがバーンぶつかった、あの台風です。計画運休という電車も事前に止まってましたから、もう早うに休館やと決めてお知らせしました。さらに台風二十四号というのが九月末に来まして、二十

* 4月27日に再選が決定。収録は4月11日。